

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2796100069		
法人名	株式会社ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター泉ヶ丘(ヒスイ)		
所在地	大阪府堺市中区深阪3丁1番74号		
自己評価作成日	令和元年9月4日	評価結果市町村受理日	令和元年11月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2796100069-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2796100069-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	令和元年10月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・住宅街の中にあり、車の往来が少ないので、少し足をのばして近隣スーパーへ買い物へ出かける事もできる。又、隣が公園で四季折々に変化があり地域の方とも交流できる場になっている。  
 ・毎月イベントを開催し、地域の方を招いて行う事もある。地域に根ざしたホーム作りをしたいと常々職員達に周知しホームの良さを知って頂く努力をしている。(近隣へのチラシ配布等)又、平成29年12月から自治会へも入会し、地域の行事等のお手伝いや参加を行えるよう努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは「いつも笑顔でその人らしい生活を」の独自の理念の基、利用者の意向を尊重し、少ない職員配置の中でも職員間で協力しながら毎日の散歩や入浴等を利用者の思いに寄り添い支援したり、囲碁や将棋、パズル、食事の後片付け等を行ってもらいその人らしい暮らしになるよう取り組んでいます。地域においては、民生委員の紹介により一昨年度より自治会への入会が実現したり、ホームで行うニチイ祭り開催時は子どもを始め地域の方の参加を得て交流を図っています。また子ども向けの認知症サポーター講座にも参加し認知症の啓発活動にも携わっています。食事は業者による献立の基ホームで調理を行い、献立には鰻やちらし寿司等の行事食や誕生日メニュー等が提供され、また弁当を持って外に出たり、外食にも出掛ける等食事が楽しみになるよう努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念は平成27年の外部評価以降職員から募集し、ホームで暮らす利用者様本位の理念を新しくした	以前に職員から意見を募り作成したホーム独自の理念は夕礼の際に、法人の社是は朝礼で唱和し意識付けを行っています。日々の支援の中で利用者一人ひとりの思いに寄り添い、毎月のミーティングの中で職員間でその人らしい笑顔に繋がるよう話し合いながら理念の実践に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域とのふれあいは毎月行うイベントへのお誘いや地域の盆踊り等に参加させて頂いている	民生委員の紹介により一昨年度より自治会に入会し、時々ふれあい喫茶に参加しています。日々の散歩で公園や買物に出掛けた際には地域の方と挨拶を交わしたり、ホームで行うニチイ祭り開催時は近隣の方にポスティングで知らせ子ども等地域の方の参加を得ています。行事の際や定期的なギターや手品のボランティアの訪問があり、また子ども向けの認知症サポーター講座の活動にも参加しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの中の様子や見学への参加を促したチラシを作り利用者様と近隣へ配布している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では地域の民生員さんやご家族様に参加して頂き、情報の公開や貴重な意見をもらっている。今後は参加出来るご家族様を増やして行きたい。	会議は隔月に家族や民生委員、他事業所職員、地域包括支援センター職員等の参加を得て開催しています。利用者の状況や行事、研修、ヒヤリハットや事故等の報告をし、写真で様子を見てもらったり、事故対応等詳細に報告し話し合っています。参加者から地域の情報をもらったり、自治会入会につながる等会議が有意義なものとなっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	密な連携は取れていないが管理者は中区基幹型包括支援センターが主催している認知症の啓蒙活動に出来るだけ参加するようになっている。	基本的に行政への窓口は法人を通じて行っていますが、事故報告の際は出向いて報告しています。行政から注意喚起等をメールでもらったり、月1回のグループホーム連絡会の際にも行政の参加があり協力関係の構築に努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止・虐待防止委員会を設け、毎月勉強会を開き、職員全員が身体拘束をしないケアを実践している	毎月の身体拘束委員会の中で言葉による拘束も含め事例をあげて話し合い検討し、年に2回委員会を中心に身体拘束に関する勉強会を行っています。現在身体拘束は行っておらず、不適切な対応があれば管理者が注意をしています。玄関とフロア入口ともに昼間は施錠せず見守りながら支援し、外出希望があれば散歩や買物等に出掛け気分転換を図っています。	

ニチイケアセンター泉ヶ丘(ヒスイ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月、虐待防止委員会にて研修を実施している。普段、職員同士で何でも話せる環境を作り、虐待の無いホーム作りを目指している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	堺市の集団指導等を活用し、職員へ向けて学ぶ機会にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時は出来るだけ丁寧に説明を行い、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時等に直接要望を聞く事が多い。又、一部のご家族様は行事への参加をいただいている	利用者の要望は日々の関わりの中で聞いており、家族には毎月便りを送付し担当者からの近況報告を行っています。面会時や運営推進会議、法人アンケート等で家族の意見を聞いており、下肢筋力について意見があれば職員間で検討し今後の対応を話し合い、散歩や廊下での足踏み、体操を取り入れています。また個別の意見についても医療につなげる等その都度対応しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見の反映は随時行っているが、運営に関して、意見や提案は少ない。	月1回ホーム全体でミーティングを行い話し合いを行い、業務分担について意見が上がれば各ユニットで試し、利用者の状況に合わせて変更したり、物品購入等職員の意見を運営に反映しています。法人による職員向けアンケートの実施や年に2回管理者による面談があり意見や提案を聞き、また日々の中でも管理者は相談に乗っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やる気のある職員は社員へ推薦したり、各委員会にて研修を開催する機会を与えている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	中々法人内外の研修を受ける機会は少ないが各委員会にてリーダーを決め研修を進め、スタッフに学ぶ機会を設けている		

ニチイケアセンター泉ヶ丘(ヒスイ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員不足の中実現は難しいが他ホームとの交流を行う事でスキルアップに役立てたい		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアプランはセンター方式を活用している。出来るだけご本人に寄り添い信頼関係が持てるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約開始時当に出来るだけ希望に沿った対応を心がけている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	仕事等で外部受診の付き添いが困難な家族に対し保険外のサービスの案内等行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事はご自身で行って頂き、出来る事を取り上げないようケアプランにも入れている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご面会時等に近況を報告し必要であれば助言等頂くようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来れば馴染みの場所へお連れする機会を持ちたいが、中々出来ない。	友人や知人、親戚等の訪問があれば居室でゆっくり過ごしてもらっています。家族と外泊する方や親戚の集まりに参加したり、外部ヘルパーを利用して孫の結婚式へ出席する方もおり、出掛ける際は家族と相談しながら服装等の準備をする等人や場所との関係継続の支援に努めています。	

ニチイケアセンター泉ヶ丘(ヒスイ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置等を常に考慮しホーム全体の交流も頻繁に行っている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了時にお伝えはしている。又契約終了後も近況報告等される家族様もいる		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人にあった暮らし方、意向を大切にしている	入居時に自宅や施設、病院等に訪問し、本人と面談を行い、家族に身体状況や生活歴、今まで大切にしていた事や趣味、要望等を聞き取ると共にその方をより深く知るためのツールであるセンター方式を作成してもらっています。入居後は日々の関わりの中で知り得た情報を追記し、把握が困難な場合は表情や行動からくみ取り、カンファレンス等で話し合い本人本位に検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族様にセンター方式を記入してもらい、その後も暮らしに役立つ情報等追記し把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々お世話する中で発見する事も多い。ケアプランに反映させている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを通じて課題の取り組みを行っている。又往診医、訪問看護師の助言	介護計画は本人と家族の意向とアセスメントを基に初回は1か月で見直し、その後は基本6か月毎に見直し、入院や状態に変化があった場合は随時見直しをしています。見直しに当たってはモニタリングと再アセスメントを行い、可能な場合は家族の参加を得てサービス担当者会議を開催しています。医者や看護師、訪問マッサージ師の意見も必要な場合は計画に反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、介護記録を記入する際ケアプランに沿って記入し、必要であれば介護計画の見直しを行っている		

ニチイケアセンター泉ヶ丘(ヒスイ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別外出や合同のレクリエーションに力を入れているが会社としての制限がかなりある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源として近隣のスーパーへ買い物へ行ったり、地域の盆踊りに参加させてもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医との話し合いが必要な場合は家族様と時間調整の上機会を設けている	入居時に希望のかかりつけ医を聞いており、継続している方も往診に来てもらっています。ホームの協力医による往診を2週間に1回受け、訪問看護師による健康管理が1週間に1回にあり、緊急時等24時間看護師に連絡が可能で指示を仰ぐと共に必要があれば医師に繋いでもらっています。また専門医への受診は家族対応ですが、協力医から紹介してもらっています。利用者は眼科と歯科の往診を受け、必要や希望に応じて皮膚科の往診やマッサージの訪問があります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制をとっているため、毎週月曜日に訪問看護師が来て、日常の健康管理、相談を気兼ねなくしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先のソーシャルワーカーさんと連携をとり常に状態の把握に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医を交えご家族様の意向など充分に話し合い、スタッフ間でも情報共有している	入居時に看取り指針について説明し意向を聞き、ホームで出来る事出来ない事も伝えています。これまでに看取り支援の経験があり、重度化した場合は医師より家族に説明し、希望を聞いて方針を決定しています。家族の希望についてはその都度確認し、看取り支援の際は看護師に水分補給の方法等を教えてもらう等情報を共有しながらチームで支援に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が対応できるよう定期的に勉強会を行っている		

ニチイケアセンター泉ヶ丘(ヒスイ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を通じて実施している	年に2回昼間を想定した消防訓練を行い、1回は消防署に立ち会ってもらい、通報と初期消火、避難誘導を役割分担して実施しています。訓練については近隣の方にチラシを持って行ったりポスティングを行い、運営推進会議で報告しています。また水や食料、懐中電灯等の備蓄や備品を備えています。	夜間に火災が起こった場合について消防訓練の際に消防署にアドバイスをもらっていますが、実際に夜間を想定した訓練の実施が期待されます。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	出来るだけ寄り添い不安を与えないよう声かけに配慮している	接遇マナーや認知症に関する勉強会を行い、プライバシー保護や法令遵守の自己チェックを定期的に行っています。言葉掛けは丁寧語を基本とし、呼称は苗字ですが、家族の希望にそってその方の馴染みの呼び方をする場合もあります。不適切な場面があればすぐに注意をし、また希望にそって出来るだけ同性介助に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや訴えは時間をとって傾聴している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務の優先はせず、なるべくご本人に寄り添ったケアを心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問散髪に来ていただき、身だしなみには気をつけている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は出来る方には手伝って頂き、食事が楽しみになる工夫を行っている	昼食と夕食は業者の献立にそって食材が届き、鰻やちらし寿司等の行事食や誕生日メニュー等が提供され、可能な利用者には下ごしらえや食器を洗ったり拭く等後片付けに携わってもらっています。手作りおやつや、出前で寿司を取ったり、和食やお好み焼き等の外食、弁当を持って出掛ける等食事が楽しみなものになるよう工夫しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲み物は各人の希望を聞き、好きな物を提供し水分量も日/1300CCを目標としている		

ニチイケアセンター泉ヶ丘(ヒスイ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアを行い、毎週火曜日には訪問歯科に来てもらっている。拒否のある方には無理強いしない。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は布パンツにパットをしてオムツの軽減を考えている。こまめなトイレ誘導にてオムツの使用が減ってきた	排泄チェックを基にパターンを把握し、日中は座位が可能であればトイレ誘導を行っています。支援の結果紙パンツとパッドを利用していた方が布の下着に変更になったり、退院後については元の状態に戻るよう支援し、おむつの購入時にもその方にとって必要かどうかを検討したり夜間のみ支援方法を変更するなど職員間で話し合いながら自立に向けた支援に取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼らない自然排便を心がけている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	なるべく個々に沿った対応をしたいが時間の兼ね合いで15時位には入浴介助を終えている	入浴は午前中から15時位までの時間帯で毎日準備し、基本的に週3回は入ってもらうよう支援し、現在は入浴を拒否する方もおらず、希望に沿って毎日入っている方もいます。毎回湯を入れ替え、菖蒲や柚子湯などの季節湯をしたり、好みの石鹸やシャンプー等を持参する方もおり入浴が楽しみなものになるよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベットに慣れていない方は布団にて対応する等、その方の生活習慣に応じて環境を整えている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの薬の説明書に目を通して内容を理解するようにしているが、副作用までは理解出来ていない		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味嗜好に寄り添い支援している		



ニチイケアセンター泉ヶ丘(ヒスイ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族が連れ出してくれる方もいるが、会社の規定があり1~2ヶ月前から企画、立案しないと外出支援が出来ないようになっている。徒歩での外出支援は可能である	利用者の希望にそって毎日散歩に出掛けるよう努め、公園やバス通りに行ったりおやつや日用品等の買物にも行っています。初詣や梅や桜の花見等季節毎の外出や時々ふれあいサロン、外食に出掛け、また家族の協力を得たり外部ヘルパーを利用して外出する方もおり出来る限り外出の機会を持てるよう支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	遠足や近隣への買い物時も現金の管理は職員が行っており、本人にはして頂いていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けてきても良いとの了承を得ている利用者はご家族へ電話を掛けたり職員が代筆で手紙を書いたりしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節のわかる飾り物をして季節感を出している	玄関には温かみのある小物や毎月のホーム便りを飾り、リビングには季節毎に利用者と一緒に作成した作品を掲示し、書き初め等の利用者の作品も掲示しています。利用者の状況を考慮してテーブルや椅子を配置し、廊下にもソファを置き、少し離れた場所で寛いでいる方もいます。空気清浄加湿器や温湿度計を見たり、利用者の体感を確認しながら温度調整し、毎日掃除を行い清潔保持に努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の工夫をして和やかな雰囲気でも過ごせるよう配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	主にご家族と相談する事が多い。初めは鏡台等置けてもご本人の様子が変わってきて危険と判断すれば置かない事もある	入居時に使い慣れた物を持ってきてもらうよう伝えており、利用者は使い慣れたタンスやテレビ、扇風機等を持ち込み、大切にしている仏壇や家族の写真、ぬいぐるみ等を側に置いています。趣味の茶道や書道の道具、本等を持ってきている方もおり居心地良く過ごせるよう配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒のリスクを避け、出来るだけ自由に歩けるよう環境整備している		